

「直流配電システムの技術動向」と「失敗は最大のストレス」

日時 : 平成 22 年 3 月 1 日 (月)

場所 : 住友電設株大阪本社ビル

参加者 : 35 名

はじめに、「直流配電システムの技術動向」のテーマで株式会社 NTT ファシリティーズ 研究開発本部 廣瀬主幹技術員より講演をしていただいた。講演では 直流給電の概要として海外での直流給電事業の状況や日本における直流給電の実証プラントの事例を紹介された。IT 分野における直流給電では、データセンターにおけるデータ量の増加に比例して電力コスト、CO₂ 排出量が増加していることからグリーン IT が必要となっていることや、インターネットのサイト検索に要するエネルギー量、サーバーの CO₂ 排出量と自動車の CO₂ 排出量の比較をクイズ形式でご紹介いただき、直流給電による効率化の評価としては 10~30% が期待されているとの説明があった。直流給電の開発・検討状況では、HVDC(400Vdc)開発や NEDO 実証、愛知工業大学での DC マイクログリッド (350V) の状況紹介があり、最期の 標準化動向については、規格の標準化が課題であり、IEC でも直流の標準化検討が進められているとのお話があった。終わりに、東淀川電話局での直流回路発振事故や住宅向けの技術他について質疑応答が交わされ、今後さらに注目、期待される直流給電技術について興味深いお話を聞くことができた。



続いては、「失敗は最大のストレス・メンタル・サポート (会社文化の見直し)」のテーマで南原義忠技術士 (元 住友電設株式会社) より講演をしていただいた。南原氏は、住友電設株式会社において長年に亘り社員教育を実施され、現場代理人を育成されてきた。そしてこの経験をもとに、現在は社員教育に取り組もうとしている多くの企業の講師をされており、その講義の一部をご紹介いただいた。長続きしにくい新任/若手現場代理人という状況が、経営者にとっては悩みとなっており、一方、工事現場では OJT などの余裕はなく、実務の基礎技術を取得するにも限界があり、一人前に中々育たないということが、現場側から会社への不満であるとのお話があった。そのような状況の中で氏は、社員教育の構築を担当され、教育も始めてから結果が出るまで 10 年掛かったことや社員教育は会社と管理職 (上司) 現場が各々で教える範囲を分担すべきであるとの考えを話された。現場代理人には、失敗 (リスク) の予兆を見逃さない「感性」を教育すべきとの考えをはじめ、失敗に備える、失敗に向き合う、会社文化の見直しなどのサブテーマでお話された。現場任せで OJT 環境が悪化しているといわれる中、氏の講義によって多くの企業が支援されているのを感じた。



会社と管理職 (上司) 現場が各々で教える範囲を分担すべきであるとの考えを話された。現場代理人には、失敗 (リスク) の予兆を見逃さない「感性」を教育すべきとの考えをはじめ、失敗に備える、失敗に向き合う、会社文化の見直しなどのサブテーマでお話された。現場任せで OJT 環境が悪化しているといわれる中、氏の講義によって多くの企業が支援されているのを感じた。

(本田浩一 記)